

新機一転

東海財務局長
伊野 彰洋氏
いの あきひろ



1964（昭和39）年生まれ。滋賀県出身。88年3月東京大学法学部卒業。同年4月主計局総務課採用。93年7月大牟田税務署長。98年7月理財局資金第一課課長補佐。2009年7月金融庁監督局総務課信用機構対応室長。18年6月株式会社地域経済活性化支援機構常務取締役。20年7月預金保険機構金融再生部長などを経て、22年6月より現職。

本省と地域をしっかりとつなぐ役割を コミュニケーションで信頼を大切に

【2度目の名古屋勤務】平成2年4月からの大臣官房調査企画課時代に名古屋国税局を兼務しており、7月から翌年1月までの半年間は名古屋に勤務していました。当時住んでいた地域にはまだ足を運んでいませんが、ようやく夏の暑さも和らいできたので行ってみようと思っています。また、小学5年生の頃の修学旅行が名古屋でしたが、中日新聞の印刷工場を見学したり、名古屋城やテレビ塔を見た記憶があります。

【名古屋のイメージ】赴任前後で名古屋の基本的なイメージは変わっていません。経済は元気ですし、30年前と比べましても高層ビルが増えて非常に元気な街だなという印象を持っていたのですが、再度赴任していろいろな方々と会って話してみると、思っていた以上に皆さん元気があるなど、より強く感じました。

【財投制度改革】理財局資金第一課課長補佐時代には、財政投融资の改革の仕事を担当しました。ゆうちょ、かんぽ、年金の預託義務を廃止して、自ら国債を発行し資金調達をして財政投

融資で公庫・公団に貸し出しをするという法律改正を担当しました。日本の財政システムを大きく変えるという意味では非常に印象に残っています。

【三方良し】好きな言葉は「三方良し」です。近江商人の経済哲学で、現在でいうSDGsに通じる考え方だと思いますが、お客様の利益や社会全体の利益を考えながら、自社の利益を長期的な視点で確保していく、この考え方は、仕事のあり方を考える意味では非常に有意義な視点だと思っています。

【地元との信頼関係を】東海財務局は、財務省の総合出先機関として、地域の皆さんの声を聞いて政策立案に役立つようにしっかり情報を本省に伝え、また、財務省や金融庁のいろいろな情報で地元の皆さんにお伝えすべきことをしっかりとお伝えする、そのためには地域の皆さんとしっかりコミュニケーションをとり、信頼関係を大切にしていくことが重要だと思っています。